

この課では「食べて」「歌って」「行って」など、日本語で「～して、～して…」と文を続ける動詞の形(テ形)を学びます。

ポイント

どうし 動詞のテ形「～て」は、どうし ごき がた 動詞の語基C型に、ごびせつじ テ形の語尾接辞 $-i^1$ を付ける。

1. テ形

テ形の接辞 $-i$ は、語基C型に接続します。

表1を見てください。例えば、①語基A型(基本形)が母音で終わる語(例:*abi*²「呼ぶ:A型」)は、語基C型は母音 t で終わる形になります(例:*abit*^よ「呼ぶ:C型」)。④語基A型(基本形)が t で終わる語(例:*mat*^{がた}「待つ:A型」)は、語基C型では ch で終わる形になります(例:*mach*^{がた}「待つ:C型」)。

表1. 語基の末尾音の変化

語基の末尾	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
例	<i>abi</i> 「呼ぶ」	<i>nas</i> 「産む」	<i>hak</i> 「書く」	<i>mat</i> 「待つ」	<i>uig</i> 「泳ぐ」	<i>sin</i> 「死ぬ」	<i>kam</i> 「食べる」	<i>asjib</i> 「遊ぶ」
語基A (基本形)	母音	s	k	t	g	ny/n	m	b
語基B	母音	s	k/c	t/c	g/z	n	m	b
語基C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

※「/」斜線で区切っているのは、左が西部の上平川方言、右が東部の国頭方言を併記しています。

- 1 - は接辞のマークです。
- 2 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。



テ形は、動詞の語基C型に接続するので、*abi*「呼ぶ」のテ形は、語基C型 *abit* にテ形の接辞 *-i* が付いて *abit-i*「呼んで」となります。*mat*「待つ」のテ形は、語基C型 *mach* にテ形の接辞 *-i* を付けて *mach-i*「待って」となります。表2は、8つの語基タイプごとの、C型への変化とテ形の形を、具体例とともに示したものです。

表2. 語基の変化とテ形

語基A型	例	語基C型への変化	テ形
① 母音終わり	<i>abi</i> 「呼ぶ」	母音 → 母音 t	<i>abit-i</i> 「呼んで」
② s 終わり	<i>nas</i> 「産む」	s → ch	<i>nach-i</i> 「産んで」
③ k 終わり	<i>hak</i> 「書く」	k → ch	<i>hach-i</i> 「書いて」
④ t 終わり	<i>mat</i> 「待つ」	t → ch	<i>mach-i</i> 「待って」
⑤ g 終わり	<i>uig</i> 「泳ぐ」	g → j	<i>uij-i</i> 「泳いで」
⑥ ny/n 終わり	<i>sin(y)</i> 「死ぬ」	n(y) → j	<i>sij-i</i> 「死んで」
⑦ m 終わり	<i>kam</i> 「食べる」	m → d	<i>kad-i</i> 「食べて」
⑧ b 終わり	<i>asib</i> 「遊ぶ」	b → d	<i>asid-i</i> 「遊んで」

発音してみよう!

テ形は、^{どうし}しまむにの^{りかい}動詞を理解する上で、^{いっしょ}カギとなる形です。^{がた}テ形と一緒に、^{どうし}C型の動詞の^{ごき}語基を、少しずつ覚えていきましょう。

あびてい abit - i 呼ぶ -テ形 よ 「呼んで」	なち nach - i 産む -テ形 「産んで」	しじ sij - i 死ぬ -テ形 「死んで」	はち hach - i 書く -テ形 「書いて」
まち mach - i 待つ -テ形 「待って」	ういじ uij - i 泳ぐ -テ形 「泳いで」	かでい kad - i 食べる -テ形 「食べて」	あしでい asid - i 遊ぶ -テ形 「遊んで」

練習問題

^{どうし}次の動詞のテ形を予想して書いてみましょう。

(1) **nibu** 「眠る」 → () 「眠って」

(2) **furus** 「殺す」 → () 「殺して」

(3) **ak** 「歩く」 → () 「歩いて」

(4) **tat** 「立つ」 → () 「立って」

(5) **fug**³ 「(船を)こぐ」 → () 「(船を)こいで」

(6) **num** 「飲む」 → () 「飲んで」

(7) **tub** 「飛ぶ」 → () 「飛んで」

3 fuig, fuugという地域もあるようです。

